



# 真生会富山病院

## 地域連携だより

第3号

2013年5月発行

〒939-0243

富山県射水市下若 89-10

TEL 0766-52-2156

FAX 0766-52-2197

<http://www.shinsekai.jp/>



### 真生会アイセンターの紹介



副院長 橋本義弘

真生会アイセンターは、平成21年の南館増築オープンとともに開設されました。アイセンターとは、外来から手術、入院までをトータルでサポートする眼科の専門施設です。医師、看護師、視能訓練士などが連携するチーム医療により、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供できるよう日々研鑽しています。南館2階に外来、3階に病棟と手術室があります。以下に特徴を紹介します。

#### ■豊富な検査スペース

視野検査室、眼科撮影室など各種精密検査ごとに6室の検査室を備え、視力検査は同時に6人測定できるようになっています。

#### ■視能訓練士による検査

視能訓練士が最新鋭の検査機器を用いて、幅広い検査に対応します。

#### ■入院、手術に万全の体制

眼科専用の手術室と病棟を併設し、アイセンター専属のスタッフが入院から手術、術後管理まで担当します。手術室は眼科に特化し、日帰り手術から緊急手術まで速やかに対応します。術前処置室、リカバリーは広いスペースで安心して治療を受けていただけるよう配慮しています。



次のページから、眼科ならではの屈折矯正手術について紹介します。

## ■多焦点眼内レンズを用いた白内障手術とは

通常の白内障手術では、一般的に単焦点眼内レンズを使用します。手術後は調節機能がなくなるため、焦点（ピント）が合う範囲が1点になります。このため、遠くに焦点を合わせた場合に老眼鏡が必要となり、近くに焦点を合わせた場合は遠方用の眼鏡が必要となります。

多焦点眼内レンズでは、遠近両用眼鏡のように、遠中や遠近距離に焦点を合わせることができ、ほとんど眼鏡をかける必要がなくなります。



単焦点眼内レンズの見え方  
(遠方に焦点を合わせた場合)

遠くははっきり見えますが、近くはぼやけるので老眼鏡が必要になります。



多焦点眼内レンズの見え方

遠くと近くがはっきり見えますが、中間距離は多少ぼやけます。

単焦点眼内レンズに比べると、暗所で光が散乱し、光の周辺に輪が架かって見える現象（ハロー・グレア現象）や見え方の質の微妙な低下（コントラスト感度の低下）が起きることがあります。

## ■多焦点眼内レンズの構造



ReSTOR®

当院で使用している多焦点眼内レンズは回折型といわれるものです。

このレンズは光の回折現象を利用するために、レンズの中心から同心円上に階段状の段差構造を持ちます。これにより、眼内レンズの光学部を通った光線は、遠方と近方の2つの焦点で結ばれます。



TECNIS®  
multifocal

多焦点眼内レンズは遠方・近方ともにはっきり見えるのが大きな利点ですが、光を2つに振り分けるため、それぞれの見え方は単焦点眼内レンズに若干劣ります。また、瞳孔の大きさにあまり影響されないため、一般的に瞳の小さい高齢者にも問題なく使用できます。

## ～屈折矯正手術② ICL(有水晶体眼内レンズ)～

### ■手術の流れ



①点眼麻酔をして角膜を約3mm切開します。

②切開創からICLを眼内に挿入します。

③虹彩と水晶体の間にICLを置きます。

### ■ICL手術とは

ICL (Implantable Collamer Lens：後房型有水晶体眼内レンズ) 手術は、眼球内の虹彩と水晶体の間の後房にレンズを移植する手術です。白内障手術と異なり、水晶体を残したままレンズを挿入するので、眼の調節機能が失われません。LASIKが受けられない強度近視の方や角膜が薄い方に有効な屈折矯正方法です。

ICLは平成21年2月に、厚生労働省より有水晶体後房レンズとして承認されました。

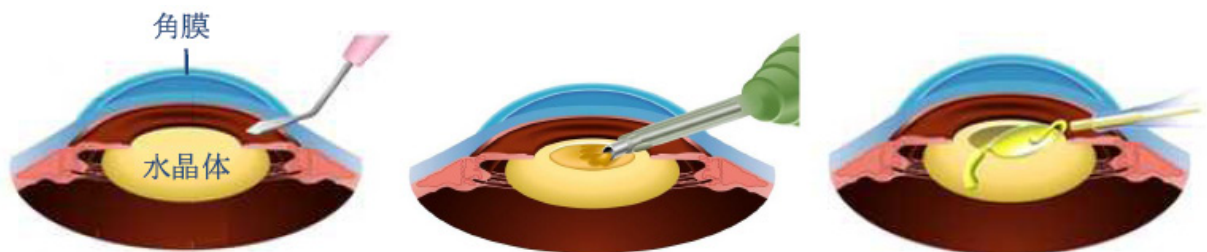
### ■ICLの素材



ICLは生体適合性の良い素材で、半永久的に使用できます。コンタクトレンズとは異なり、眼内に挿入するためメンテナンスの必要はありません。素材が柔らかく折りたたむことが可能なため、レンズを眼内に入れる時の切開創が小さくて済みます。また、387nm以下の紫外線を90%以上カットする特性があります。

## ～屈折矯正手術③ 多焦点眼内レンズを用いた白内障手術～

### ■手術の流れ



①局所麻酔をしてから白目に短いトンネルを作製します(強角膜切開)。

②超音波の力で濁った水晶体を砕いて吸い出します(水晶体超音波乳化吸引術)。

③多焦点眼内レンズを挿入します。

# 屈折矯正手術について

最近では手術により解決できるようになりましたが、近視・遠視や乱視、また老眼は日常生活の質を落とします。当院で行なっている屈折矯正手術を紹介します。

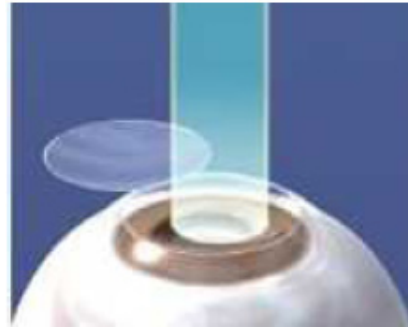
## ～屈折矯正手術① IntraLASIK（レーシック）～

### ■手術の流れ



①フラップ作成

点眼麻酔を行った後、フェムトセカンドレーザーでフラップを作成します。



②エキシマレーザー照射

フラップをめくり、エキシマレーザーを照射して角膜を切除します。その後、フラップを元の位置に戻します。

### ■当院のシステム



#### iFS® フェムトセカンドレーザー

従来のLASIK（レーシック）で用いたマイクロケラトーム（金属の刃）に比べ、均一で切断面がなめらかなフラップが作成できます。これにより、フラップ作成による高次収差が軽減し、夜間運転や映画館内などでの見え方の質が向上します。また、フラップの接着力が強くなるため、フラップずれや不完全フラップといった合併症が少なくなります。



#### iWaveScan Wavefront® システム

高精度の波面センサーで、波面のゆがみを短時間で正確に測定します。測定した波面データを元に、個々の眼に合わせたレーザー照射プログラムを作成します。



#### iVISX Star S4IR® エキシマレーザー

WaveScanで測定した眼球形状のデータに基づき、レーザー照射時に眼の位置の誤差を補正し、眼の動きにあわせた正確な照射を行います（3D アクティブトラック）。

当院では、これらのシステムを用いて、通常の屈折矯正手術の他に白内障などの内眼手術後の乱視矯正も行っています。